



# ミニーマウス号



第193号

発行日：令和二年2月1日

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院

院内情報委員会

## 診察室から ～てんかん（Ⅱ）～

理事長 福田 雄高

※広報誌12月号 てんかん(I)の続きです。

てんかんの診断としては、病歴に加え、脳波検査、及び頭部MRI検査が重要な検査になります。てんかん発作に見られる異常脳波を検出すること、また頭部MRIにより脳の異常な構造がないかを調べます。更にてんかんが疑わしい場合は、てんかん専門医に紹介し、長時間ビデオ脳波モニタリングなどによる、より正確な診断の確定、治療薬が適切か判断することも非常に重要です。

診断されたら、まずは服薬治療が重要です。正しい診断を受け、適切な治療を受ければ、多くの場合、発作を抑えることができます。内服するも効果が得られない難治性てんかんの場合は外科治療を考慮する場合があります。

☆てんかん 日常生活で気をつけたいこと

- ① 規則正しい生活をする。睡眠不足、過労、ストレスは大敵。
- ② 発作の誘因となるような刺激を避けること。過度のアルコール摂取、チカチカする強い光、大きな音、ざわざわと騒がしい環境などは、発作を誘発することがあります。
- ③ できるだけ一人にならないこと。

本人には自覚症状がなく、家族から指摘されてはじめてわかることも多いです。家族の誰かが、あれ？なんかこれって・・・てんかんっぽいかもと気になった際はまず気軽に相談頂ければと考えます。



北堀の夕暮れ